Rotary YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
Serve to Change Lives

2021-22年度 RI会長／シェカール・メータ
RI.D2590ガバナー／小倉　正
横浜旭RC会長／北澤 正浩

国際ロータリー第2590地区
横浜旭ロータリークラブ
事務所　横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
例会場　横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
（㈱岡田屋３階会議室）
例会日　毎週水曜日／12時30分～１時30分

横浜西部病院へフェイスシールド寄贈

横浜市へ医療機器支援

旭ふれあい区民まつり

２０２２年５月２５日　第２４６３回例会　VOL. ５３　No. ２５

**■司　　会**　副SAA　五十嵐　正

**■開会点鐘**　会　長　北澤　正浩

**■出席報告**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会員数 | ２１名 | 本日の出席数 | １５名 |
| 本日の出席率 | 75.00％ | 修正出席率 | 85.00％ |

**■オンライン出席者**

岡田、宋、市川、佐藤（真）

**■本日の欠席者**

福村、二宮登、二宮麻理子、東谷

**■他クラブ出席者**

新川（地区）

**■会長報告**　北澤　正浩

皆様、こんにちは。

今週の日曜日にアメリカのバイデン大統領が来日されました。今回の来日に合わせ、「QUAD（クアッド）」日本とアメリカ、インド、オーストラリアの４カ国の首脳会議を開き、安全保障などの分野での連携の強化と、「インド太平洋経済枠組み（IPEF）」の発足を表明し、岸田首相も日本の防衛力を抜本的に強化することを明らかにしました。今回の最大の目的は安全保障面や通商面でも中国に対抗しようという意味合いがあるとニュースで聞きました。国際的な政治の駆け引きについて、精通していない私が言うべきではないと思いますが、世界の覇権争いや周辺国の争いごとに日本は巻き込まれ、対応を迫られているのは明白で、今の世界情勢を見渡せば致し方ないことだと理解はできます。ただ、願わくは国家間の問題で世界が不安定になることなく、相互理解により安定した世の中であってほしいと願います。

ロータリーの使命は、職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて、人びとに奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進することです。

現在、ロータリーはロシアのウクライナへの侵攻に対し、募金活動等の戦争による被災者人道的救援活動を行っておりますが、さらになすべきこととして、紛争まで至らない為の国際交流等による平和構築にも力を入れていかなければなりません。すでに奉仕プロジェクトや平和フェロー・奨学生への支援を通じ、貧困、差別、民族間の衝突、教育機会の欠如、リソースの不平等な配分といった紛争の根底にある問題に取り組んでいますが、混沌としたこれからの時代には、ロータリーが世界から求められている役割が、さらに重要になってくるように思います。

**■幹事報告**

例会臨時変更のお知らせ

○横浜田園ロータリークラブ

日時　６月14日㈫「南町田グランベリーパー

ク見学会」⇒ 17 時田園都市線南町田グランベリーパーク駅改札口集合

日時　6 月 28 日㈫　最終移動例会　点鐘 18 時

○神奈川東ロータリークラブ

日時　6 月 24 日㈮⇒ 20 ㈪年度末夜間例会

会場『崎陽軒　本店』

**■ニコニコ BOX**

**北澤　正浩**／安藤会員の卓話を楽しみにしております。

**佐藤　利明**／安藤さん卓話よろしく。

**関口　友宏**／「鶴ヶ峰駅周辺まちづくり構想」大いに関心があります。安藤さんに受講料として。

**田川　富男**／久しぶりの例会出席。すみませんでした。各業界も総会が続いていると思いますが、例会日と重なりました。

**五十嵐　正**／安藤さん、本日の卓話よろしくお願いします。ウクライナ支援募金に皆様ご協力ありがとうございました。

**内田　　敏**／安藤さんの本日の卓話楽しみです。宜しくお願い致します。

**新川　　尚**／岡田さん、本日の卓話宜しくお願いします。

**安藤　公一**／本日卓話をします。宜しくお願いします。

**■卓話**「鶴ヶ峰駅北口周辺地区まちづくりと連続立体交差事業の現況」　　安藤　公一

職業卓話ということで弊社が行っている事業の話は、既に何回かお話してしまったので、事業以外の面で皆さんにお話しできるのは、掲題の件ならば皆さんにご興味を抱いて頂けるのでないかと考えお話することとしました。

皆さんにお配りした「鶴ヶ峰北口周辺地区まちづくり構想」をベースにご説明していきます。私は、現在「鶴ヶ峰北口周辺地区まちづくり協議会」の理事長をココロット鶴ヶ峰を作り鶴ヶ峰駅南口再開発のご経験のある故島崎迪夫氏の後を継ぐ形で就任し現在に至ります。その経緯は、冊子 1 ページに記載しています。

当冊子の問い合わせ先は、裏表紙に記載されている通り「横浜市都市整備局市街化整備推進

課」と「旭区区政推進課」ですが、当「まちづくり協議会」もこの構想作成には大いに関わりました。

この構想の基となっているのは、上位計画である「横浜市都市計画マスタープラン（2013 年 3 月）であり旭区プラン（2018 年 11 月）です。ご興味のある方は市役所の HP にアクセスすればいつでもダウウンロードできますのでお伝えしておきます。

4 ページには後でお話しする相鉄鶴ヶ峰駅付近連続立体交差事業についても触れられています。

現状を捉え、課題を抽出し、その課題をクリアして新しい時代へ繋がる構想を作っていくという流れでこの冊子は作られています。ただこの冊子作成時の 2019 年 3 月の段階では新型コロナの感染は始まっていなかったことは留意しておく必要があります。今となっては感染拡大防止に強い街というコンセプトも付け加えておくべきだと思います。

まずは現在の状況の確認です。P5 の 5 年毎の旭区の人口推移・予想の表を見ると 2000 年には 25 万人を越えていますが、その後僅かながらも減少しています。直近のﾃﾞｰﾀによれば、2022 年 1 月 1 日現在は 243,359 人、この 2 － 3 年は毎年 1500 人の出生と 2800 人前後の死亡で年々 1200 ～ 1300 人程の減少となっています。この約 24 万人の内、65 歳以上の高齢者が約 7 万人以上と言われており、横浜市 18 区の中で最多数を戸塚区と競う状況となっています。

続いて土地利用、商業環境、住環境、水緑環境はご一読願います。この中で最後部分に触れている災害時の緊急避難場所としてのオープン

（2）平面図・縦断図（参考）

スペースの不足が指摘されています。

道路・交通状況です。町の中心に水道道が通っていますが、車いす、ベビーカーが行き来できる歩道が確保できていない部分が鎧橋から区役所にかけてあり、市民の安全を脅かすことになっています。

また、駅からバスターミナルまで 250m 程の距離があり、タクシー乗り場も南口は駅の階段を下りたところにありますが、北口は 150 m程離れています。また待機スペースがないため周辺道路の安全確保に影響を及ぼしています。

鶴ヶ峰駅の毎日の乗降客数は、57,000 人を越えており、バス乗降客も 38,000 人前後と言われています。

道路状況から考えると何といっても開かずの踏切（1 時間に 40 分以上閉まっている踏切）が一番の問題です。緊急車両も踏切は遮断中は通ることはできませんし、僅かな時間内で急いで踏切を渡ろうとすることで特に高齢者や幼児などは思わぬ怪我を負ってしまうリスクも高まります。

鶴ヶ峰の再開発や駅周辺のまちづくりを考えていく上でこの踏切除却が最大のネックとなっていました。

2016 年に横浜市が次の連続立体事業候補として鶴ヶ峰駅周辺地区を挙げたことに対し、当時の「鶴ヶ峰駅北口地区再開発協議会」として当時の林市長に要望書を同年 12 月に提出し、相鉄線の同区間の地下化を要請しました。要望内容は以下の通りです。

1）連続立体交差事業計画の早期情報提供（案の段階での情報共有など）と検討への参画、事業計画決定前での意換交換会の適時の実施

2）連続立体交差の方式は、生活環境の悪化が想定される高架方式ではなく、地域住民の生活環境の改善に繋がり、地震災害での被害を軽減できる地下方式の採用

3）連続立体交差事業とまちづくりについて、双方の計画を連携し、同時並行的な事業進捗により、各事業の工事期間短縮による早期事業完了の実現

4）踏切解消だけでは解決できない鶴ヶ峰駅周辺の道路交通環境改善を目的とする道路整備等の実施（道路整備による減災、安全環境施策への配慮）

5）地下化後の既存線路部の有効活用を含めた鶴ケ峰駅周辺まちづくりの早期実現

6）地下駅と地上の商業空間の連続性の確保並びに地下化された駅と地上を高齢者や障害者が不自由なく往来できる設備（エスカレーター・エレベーター等）の整備

7）工事期間中の安全性等の配慮（当地区には狭隘な道路が多く且つまた高齢者の歩行も多数の為、この点は極めて重要）

これに対応する形で横浜市の交通局を中心に翌年より 2 年間かけてボーリング調査などを行い、添付資料 2 ページ目の流れで、2021 年 11 月に都市計画決定を受けることとなりました。当該資料は横浜市道路局のＨＰに掲載されています。

これによると本年度下半期に着工し、11 年後に完成予定となっていますが、トンネル部分

だけで 2000m 以上あり地上へ出ていく部分が前後 500m としても掘削時に出てくる土砂は、距離 1m で約 100 トンならば、全体で 25 万トンもの土砂を処理しなければなりません。岩石・土砂・水の分別場所、そこへのアクセス道路、廃棄場所等々の準備にも時間と労力そして莫大なお金が必要となってくることは想像に難くありません。計画当初の説明では、総工費が約 750 億円、1 割が相模鉄道、約 5 割が国、残りの約 4 割部分が市の負担と聞いた覚えがあります。

この連続立体交差事業で鶴ヶ峰―西谷間の 1 つの踏切と、鶴ヶ峰―二俣川間の 9 つの踏切が除却されます。このうちの 5 個が開かずの踏切です。

鶴ヶ峰駅新駅舎は、地下 4 階でこの部分は地上から掘っていくようです。場所は今より 50 m程西谷よりの北よりとなると聞いています。添付の図をご参照ください。（この部分は、旧市営住宅跡地で地権者は横浜市で今は自転車駐輪場として使われています）

新駅舎地上部分をどうするかは、未だ検討中とのことで、相模鉄道と地権者である横浜市が検討を重ねているようです。

当協議会からは未だ正式な要望書は出せていませんが、折角地上から地下 4 階まで掘るのであれば、地下部分にシェルターとして避難場所に使える場所を設けてはどうか、またその一部に災害時の備えとしての備蓄品倉庫なども使える場所を確保してはどうか等を口頭で申し入れしているところです。

星川―天王町間の高架化による連続立体交差事業は、19 年間の月日を要しました。列車を運行しながら、新たな線路を隣接させる事業はさぞかし手間のかかる事業だったと思います。地下化にすれば、工期は半分で済むものの、工費は約 3 倍かかるものと聞いています。

この鶴ヶ峰―二俣川間の連続立体交差事業が完成すると約 2km の地上線路部分が活用できることとなります。今のところこの部分は相模鉄道の所有地ですが、横浜市と協議を進めて今後どのように活用していくか、旭区民として考えておくべきだと思います。

鶴ヶ峰駅北口周辺地区まちづくり協議会としては、現鶴ヶ峰駅舎部分を緊急時の避難場所として活用できる駅前広場にできないかとも考えています。

横浜市として初の地下化での連続立体交差となり、そして初のシェルターを備えた町、緊急災害時の備蓄倉庫も備わっているとなれば、ズーラシアへのアクセスポイントの一つとしての鶴ヶ峰から別の意味でも注目を集めることのできる場所への飛躍の一歩になることができれば、まちづくりに携わった人間として嬉しい限りです。

連続立体交差事業については、これくらいにして街づくりに戻ります。前述の相鉄線の地下化のスケジュールが出たことで、できればその完成時に合わせて、北口駅前の再開発を行いたいという考えは、横浜市も同様です。

今まで出た町の課題をクリアしていくことが、町の発展を助けていくことは明確です。

それを考えていく上での基本コンセプトは p21 にある 4．まちづくりの目標です。
「文化や水・緑を感じる豊かな環境に人が集い、快適に暮らしつづけられるまち」

この基本理念に基づく「まちづくりの方針」が続く P23-24 に記載されています。

あまり具体的なものとはなっていませんが、築 50 年を過ぎた旭区役所の建て替えまたは移設なども考えていかねばなりませんし、そもそも旭区に限らず行政機能としての区庁舎業務のあり方そのものもこの機会に 1 から考え直しても良いのではなかとも考えています。

また、災害時、緊急時を想定した避難場所等の準備もまちづくりに活かしていきたいと考えています。

稚拙な説明となってしまい、多分に舌足らずな表現となってしまったことにお詫び申し上げ、本日の卓話を終わらせて頂きます。

**■次回卓話**　移動例会（親睦旅行）